



給食委員会のイベント

昨日11日(火)の昼休み、給食委員会が呼び掛けて、イベントが行われていました。給食委員会の子供たちは昨年度から、給食王との「握手会」のイベントを行っており、そのイベントにはいつもたくさんの人だかりができます。今年もさらにイベントに工夫や改良が行われて参加している子供たちも楽しそうでした。例えば、低・中・高学年ごとに給食に関するクイズを出題するテーブルを準備し、クイズを解き進みながら全問正解すると、景品カード(給食王とミルクキングのシール付き)をもらえた上に、給食王と握手ができるというおまけ付きでした。



給食委員長の林田さんは「今回のイベントで、全校児童の人が給食に興味を持って欲しいと思います。1学期から準備してきましたが、みんなクイズを楽しそうに解いてくれて、やってよかったなと思います。」と述べ、2代目給食王の星子さんは「ジャン負け(ジャンケンで負ける)で、5年生のときに入った委員会だったんですけど、やってみて楽しかったし、やり甲斐があったので今年は進んで入りました。握手会もできて給食委員会でもよかったです。」とイベントを振り返りました。

帯西では、学校行事や委員会の子供たちの発想によって、わくわくするようなイベントが行われています。これは「わくわく」の連鎖だと思っています。このような高学年の姿が、同じ高学年の子供たちにはやる気呼び起こし、下学年の子供たちには好奇心を刺激し、「自分たちもやってみたい!」と言う気持ちにさせ、学年・学級での集会等で生かされていくのです。このような積み重ねが学校に活力を生んでいきます。

そこにはただイベントに浮かれている姿では無く、日頃から常時活動できちんと自分たちの役割を果たそうとする委員会の子供たちの姿が垣間見えるからこそ、その活動がさらに輝くのです。

6年生への感謝の思い

今日の午前中に家庭科室前から子供たちの声が聞こえてきました。校長室から見ると、5年生の子供たちが、給食室前から家庭科室前の通路を拭いたり掃いたりしているのです。話を聞いてみると、6年生が卒業式に通る場所をボランティアできれいにしているという訳でした。今日は5年1組が掃除をしていて、2組・3組と場所を分担しながらきれいにしていこうそうです。5年生の子供たちにボランティアへの思いを尋ねると、「今まで6年生にはお世話になったので、気持ちよく卒業して欲しいという思いできれいにしています。」「6年生の皆さんには、委員会活動やたてわり班活動でリーダーとして頑張ってくれて、感謝の思いを込めています。」と述べていました。たくさんの方の感謝の思いが6年生に向けられていることを感じました。

